

カトリック 仙台教区報

2001年 10月 20日 No.142
 発行
 カトリック仙台司教区
 〒980-0014 仙台市青葉区本町 1-2-12
 Tel (022) 222-7371 Fax(022)222-7378
 編集責任者 田中丈夫
 URL ; <http://sendai.catholic.jp/>

目をあげて畑を見るがよい

仙台教区 司教 溝部 脩

「目をあげて畑を見るがよい。色づいて刈入れを待っている」(ヨハネ4・35)。

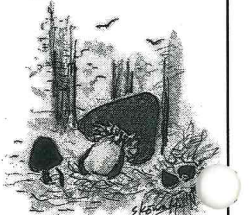
ヨハネ四章はサマリアの女との対話で始まり、対話で終わっています。イエス様は女に永遠の水を約束しています。しかし、女は見える水のことしか理解できません。水は甘いか、冷たいとか、熱いとか、ともかく感覚的な理解しかないのです。考えてみれば、これは私たちの今の姿です。教会に行っていると言っても、その実求めているのは、この世のことではないのです。この世のことが忙しくなれば、すぐさま教会のことなど簡単に忘れてしまいます。教会に来るとか、来ないとかの問題ではなくて、この世のことがまず第一で、余裕のある時の道楽が宗教となった感があります。

イエスというお方に信じれば、そ



うすれば水が単なる水でないということに気付かされるのです。サマリアの女が、イエスというお方に信じたその時を、「色づいた刈入れ」と、ヨハネは表現しました。「色づいた刈入れの時」とは、すなわちこの世のもの、出来事の中に神の手をしっかりと読み取るようになる状態を指しています。信仰の目で配偶者を見つめたら、きっと変わります。信仰の目で家族を見つめれば、職場の人をみつめれば、全ては変わります。起こる事件の数々も全て祈りに変えられます。これが「みのり」なのです。

洗礼の水は人の生き方そのものを変える神の力です。受洗して長く信仰生活を送っている方も、短い方もおられるでしょう。どちらにしても、「色づいた刈入れの時」を実感する必要があります。そのためにはどうすれば良いのでしょうか。イエスと



いうお方をしっかりと見つけよう。イエスのものの見方、考え方をしっかりと理解することです。聖書に触れてみることは、その意味でもとても大切です。一人で、グループでみことばを分かち合っている方々が教区にいるのを見るのは、私にとつて最大の慰めです。ことばの味わいは、それを通して祈る時にきつと実感されるものです。

そして、何よりも秘跡を通してイエスというお方の優しさ、厳しさを実感することができます。洗礼の秘跡でわたしたちは生まれ変わりました。どんなことにも、どんな出来事にも神様の手をしっかりと見つけることができるようになります。ゆるしの秘跡で神様に立ちかえる素晴らしい恵みを実感できます。ミサの祭儀で神様との深い交わりに生きることが出来ます。秘跡に生きる生活が、「色づいた刈入れの時」なのです。信仰の目で現世の営みを見つめることができるその時こそ、「色づいた刈入れの時」なのです。

(カット 幸脇 幸子)

生命の泉

▼最近の教会は求道者の要理勉強よりも信徒の勉強会が盛んである。これはどういうことであろうか。▼私たちの信仰が聞くことに始まり、聞

いたことを心に留めておくためには知的な理解を必要とする。つまり、理解することなしには信仰はあり得ない。けれどもそこに止まると、洗礼を受けてもまだまだ理解が足りないせいだ。信仰が深くならないと考えがちである。▼しかし、このような考え方は信仰生活のすべてではない。先日、あるプロテスタントの集会で「日本の教会には沈黙の祈りがなすぎると」ということが話題になったという記事を新聞で読んだ。また、その中で「日本人には静寂と自然の中で祈ることに向いている」との指摘もあつたそうである。▼勉強会ではイエス様のみ言葉とみ業について学ぶことが多くなるが、学んだことを静かに味わいそのイエス様が信仰すべき神であること、をしっかりと心に留めておかなければ信仰は熟成しない。▼熟成するためには静かな神との語らいが不可欠である。教会の中で静寂さが支配するようになりたい。(守)

青森 十和田教会

▼人口六三、〇〇〇人の十和田市に創立百周年祝い後七年経ったロマネスク様式の白塗りの瀟洒な教会堂が建っている。今から七〇年前スイスの建築家マックス・ヒンデルの設計による日本では数少ない現存の貴重な建造物故、歴史的、文化的遺産の意義も大きい。▼また、青森県下カトリック系で最古と言われる幼稚園は幼児教育の伝統と共に、地域社会に大きく貢献している。園長のマルセル・ポリケン神父様は数年前、国から叙勲された。▼一八八四年に信

仰の種が播かれてから先人の苦難と祈りに支えられている。現在の信徒数は五〇数名、高齢化、小人化は避けられない。▼ポリケン神父様の丹精込めた緑豊かな景観は四季折々の花々を咲かせ道行く人の心を和ませる。▼三〇数年前から幼稚園と共にある〇先生は教会にとってもかけがえのない存在であることを最後に記したい。(川村)

宮城 仙台中央地区一本杉教会

今年六月中央地区司祭チームから出された(今後の教会のあり方についての)「課題提案」に対し



て、一本杉教会では、前向きに受け止めていくこと、そして他教会との資料・企画の共有化を呼びかけていこうということになりました。その第一回目として九月末に仙塩地区八教会の協力を得て、右の「課題提案」の中で触れられ、また司教様も勧められた『蘇生でなく新生を』の著者・神林宏和神父(大阪教区)【写真】をお招きして、私たち自身の信仰を確認するための講演会「教会とは何か〜阪神淡路大震災から教えられたもの」と黙想会「なぜ私は『信者』しているのか」を開催しました。今私たちが「新しいぶどう酒(刷新された信仰)は、新しい皮袋(共同宣教司牧)に入れるものだ。」(マタイ・九・一七)という気持ちではホントだな」と実感しています。そして、この「新しいぶどう酒」を求める企画は今年度いっぱい続きます。第二回は十二月「なぜ私は『信徒』・『修道者』・『司祭』しているのか」、第三回は二月「マザー・テレサにみる『奉仕』です。神林神父のテーマご希望の方は一本杉教会までご連絡ください。(高梨)

各地から

今春、宮古教会には大きな動きがありました。三十一年間務められた五代目レンネル神父様が、スイスのベトレヘム会本部に帰られ、六代目に八十一歳のヨセフ神父様が着任されたことです。初代からずっとベトレヘム会の神父様方に支えられてきましたので、恩人として感謝しています。四月十五日の御復活祭の日に、二人の神父様の歓迎迎会が小百合園ホールで、百二十三名が参加し手造りながら盛大に行われました。【写真】レンネル神父様の送別会は、幼稚園関係だけでも十数回、中にはテレビで放送されたものもありましたが、私達信者とはヨセフ神父様の歓迎会と一緒に心に残るものとなりました。



岩手 宮古教会

今年、宮古教会には大きな動きがありました。三十一年間務められた五代目レンネル神父様が、スイスのベトレヘム会本部に帰られ、六代目に八十一歳のヨセフ神父様が着任されたことです。初代からずっとベトレヘム会の神父様方に支えられてきましたので、恩人として感謝しています。四月十五日の御復活祭の日に、二人の神父様の歓迎迎会が小百合園ホールで、百二十三名が参加し手造りながら盛大に行われました。【写真】レンネル神父様の送別会は、幼稚園関係だけでも十数回、中にはテレビで放送されたものもありましたが、私達信者とはヨセフ神父様の歓迎会と一緒に心に残るものとなりました。

迎えるにあたり、高齢化などさまざまな問題を昇華し、共同体として、未来への歩みを進めていきたいです。(伊藤)

福島 須賀川教会

当教会では、多くの外国人の信徒の方が、主日のミサに私たちと共に預かっています。明るく和気あいあいとしたムードの中、ミサが行なわれています。又、月に一度、交流をかねてパーティーを開いています。

自国の手料理を持参してくれる方もおられて、国際ムード豊かな中、食事をしたり、歌を歌ったり楽しいひと時を過ごしています。

当教会の信徒数が少ない中、外国人の信徒の方の明るさ、かつ、信仰の深さに感動し、助けられています。明るく、パワーを持った当教会、このムードが持続できるように、がんばりたいと思っております。(先崎)

本の紹介

鷹嘴達衛神父が長年かけて翻訳した、ルネサンス時代の巨匠ミケランジェロの詩集『リーメ』がこの度出版された。女性であれ男性であれそれぞれが持つ神へ通ずる真の美しさについて、困難な仕事に向かう時の心情、更にキリスト者としての人生の意味を追求した作品等が多い。『リーメ』朔社発行 (定価 2000円)



文芸

〈短歌〉

柿見れば 母の好みし百匁柿
どこかにないかと 八百屋巡りす
登りてもぎし 母のふる里

〈俳句〉

野薊に埋もれしままに 薄暑生む
教会の影おく先端

募集

皆様の作品をお寄せください。(仙台司教区事務所まで)



2001年カトリック岩手県大会

九月十六日(日) 大船渡市の福祉の里センターにてカトリック岩手県大会が開催されました。地元の方言、ケセン語で「一足、外さ跳びだすべア」地域の人々に福音を伝えようというテーマで県内各地の教会から信徒が集まりました。

はじめに教会の外に向かつての具体的な活動ということで盛岡・四ツ家教会のいのちの電話、水沢教会の寿庵祭、大船渡教会の市民クリスマスなどを例にした報告が行われました。また大船渡教会の山浦玄嗣さんの司会による四名のパネラーによるパネルディスカッションでも、教会内外への具体的な提案や展望が語られました。

ベトレヘム会のツゲル神父様から「ベトレヘム会五十年の歴史」について、愛され大切にされていることを感じながらそれを伝えていく活動と、それを支える祈りについて講話をしていただきました。溝部司教様からは、ご自分の経歴を紹介しながら、私達ひとり一人が主体性をもって伝

えていかなければならない、神や超自然を排除し合理的な物を求める世俗化の波へ立ち向かわなければならぬ、祈りをともなった活動でなければならぬ、等の内容の講話をいただきました。最後のミサではこの一週間の間に起きたアメリカでのテロの犠牲者のため、世界平和のために黙祷を捧げて大会が閉会となりました。これまでの県大会の形式を一步踏みだし、入念な準備をされ大会を運営されてこられた大船渡教会の方々に感謝いたします。

(久保田)



福島県カトリックの集い

困窮と皆様の和やかな様子に、最初の緊張もいつしか解け、一日、有意義に楽しく過ごすことができました。午前中の溝部司教様のお話は、信者になって間もない私にとつて大切なことばかり。まさに神よりのメッセージであった。世俗化の進んだ現代社会における信徒使徒職の役割について、祈りと活動のバランスのとれたキリスト者としての生活など。

これから、家庭で、職場で、祈りを深め実践していきたい。

信夫山のみもと、たくさん

の車が行き交う国道四号線を横に折れて間もなく、静かな木立に囲まれた一角に桜の聖母学院がある。九月二十三日(日)、第三十一回福島県カトリックの集いがここで開かれた。

私は今年八月十五日聖母被昇天祭に、神の大きな恵みにより受洗し、キリスト者として新しい出発をしたばかりなので今回が初めての参加だった。

マリアンホールの温かい雰

午後は、溝部司教様の司会で県内の神父様方、そして三百人ほどの人たちと共にミサ聖祭にあずかることができ、その荘厳さとパイプオルガンによる典礼聖歌の響きに胸が熱くなった。

また、ハワイエの売店に並んだ本は読んでみたいものばかり。食堂の各教会のバザーコーナーには心のこもった数々の手作りの品。おかげで楽しいひと時を過ごすことができました。

皆様ありがとうございます。そして神に感謝。(物江)

教区人事異動

- 笹氣直哉師
- 仙台中央地区担当 ↓ 転地療養
- 小野寺洋一師
- 仙台中央地区担当
- ↓ WYD事務局(東京真生会館)
- 並びに教区WYD担当を兼務
- 平賀徹夫師
- 気仙沼教会 ↓ 仙台中央地区担当
- 坂本 進師(神言会)
- ↓ 仙台教区協力(気仙沼教会主任)
- 佐々木博師
- 北上教会教会管理者
- ↓ 一関教会主任代行
- 佐藤 修師
- 水沢教会
- ↓ 水沢教会・北上教会兼任
- 土井勝吉師
- 一関教会 ↓ 病氣療養

仙台司教区ホームページ

を開設しました。

(URL) <http://sendai.catholic.jp>

まだ検索サイトに登録していませんので、上記のアドレス(URL)で開いてください。

E-Mail

kyoku-office@sendai.catholic.jp

八木山教会 仮設集会所建設について

八木山教会信徒会長

岡田 謙一

本年六月に立ち上げられた司祭評議会によって、ようやくこの七月に指針が示され、八月十二日に建設計画のガイドラインがまとまりました。一月十六日の火災により、事实上教会は使用不可能になり、多くの方からお見舞い、慰め、励ましをいただきました。勝手ながらこの紙面をお借りして建設の中間報告をさせていただきます。

教会の火災事故は私達には

私の気分転換

白河カトリック幼稚園

Sr. 川越治子

いつも私のポケットにのばせているのは、ケイタイでもパソコンでもありません。親友「ミニトランプ」です。

この昭和二年生まれの、少しこわれかけた頭で、何かを一生懸命考えて、考えつかれたとき、何か心にかかることがあって気が沈んでなかなか暗いトンネルから出られない時、いつも私はポケット

大きな衝撃ではありませんでしたが、火災の四日後行われた緊急信徒総会では「なんとか再建したい」との声が多く出され、再建に向けて行動を開始いたしました。最初は資金の目途さえ付けば比較的早期に出来るのでないかと思われしました。

しかし、そこには仙塩地区の新生を目指して宣教司牧の基本方針を新に確立しなければならぬという、大きな課題が待ちうけていました。その基本方針の中には宣教課題、協力のありよう、再編成、教会配置、共同司牧のありかた等含まれており、その基本方針が確立される前に八木山に

のトランプにたすけてもらっています。私の「気分転換」は、トランプの一人占いです。

あの、昔からの七並べ、並べておもてを出すたびに、数々のカードが「ダメ」と悲しい顔をしていたり、「ヤッター！」と笑っていたり、こうして私の心の雲をとりのぞいてくれるのです。時間もお金もかからない、とてもかわい「気分転換」です。どうぞ一度お試しください。

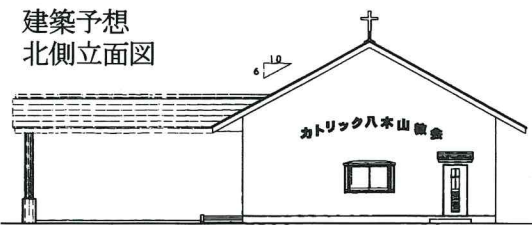


前と同じような教会を建ててもよいのかという疑問が投げかけられました。そしてその問いに対する回答は司祭評議会との度重なる意見調整を経てようやく次のようにまとまりました。

- 1、建物建設予算
二〇、〇〇〇、〇〇〇円
- 2、規模
四〇坪前後
- 3、用途
仮設集会所
- 4、設計
八木山教会

仮設ということ、前述の基本方針が確立されることになつて二〇〇三年八月までの暫定的な最小限の建物という意味です。また、集会所といつてもミサを捧げるのに相応しい雰囲気をもった室内にすることにしています。着工は本年十一月中旬、完成は来年三月上旬を予定。現在

建築予想
北側立面図



は隣の幼稚園のホールを借りして主日ミサをささげており、また信者さんのお宅に焼け残った備品を預かっていたりして

ますが、いろいろな制約や不便があり、一日も早い完成が待望されます。来年は、新しい建物ばかりでなく、信徒一人一人が新しくなつて御復活を迎えたいとの希望を抱きながら、一歩一歩作業をすすめております。

最後に、これまで多くの方に物心両面でご支援いただきましたこと、改めて八木山信者一同感謝申し上げます。
(二〇〇一年十月)

修道院紹介

ラ・サール会仙台修道院

▽その歴史は昭和十一年十一月から始まります。会員が日本にきたのは、昭和七年の十月、函館でしたが、軍国主義の当時、要塞地帯であった函館に学校設置は不可能ということで、十一年に仙台に移り、北材木町に外国語学校を開きました。▽戦争中は「敵性国人」というので強制収容、ドイツ人会員が一人残つて二高(旧制)の教壇に立っていました。▽戦後、当時の社会状況から児童福祉の問題が緊急課題となり、宮城県からの要請を受け児童養護施設の設定が決まり、その経営母体とし

ての修道院建設も同時に進められ、これら二つの建物は昭和二十三年秋から初冬にかけて完成したのです。▽現在修道院には三名の修道士がいますがカナダ、メキシコ、日本という多国籍の「国際的」修道院です。▽施設「ラ・サールホーム」は七〇名在籍で児童は満配、豊かな現代社会が抱える深刻な児童問題を示す場所です。

新司教館建設に向けて始動。第一回建設委員会が十月十二日開催された。

若者の集いご案内

来年夏、ワールドユースディ(WYD)がカナダのトロントで開催されます。テーマは「あなた方は地の塩、世の光。」その大会に先立ち「若者の集い」が仙台教区カテドラル(元寺小路教会)を会場に開催されます。

日時:2001年12月2日(日)14:00~18:00 (17:00~ミサ)

テーマ:「グロー司教と語ろう - WYD -

新しい自分発見の旅」

担当:松浦悟郎 WYD 担当司教とスタッフ達